

くまがわ・明日の川づくり報告会 VOL.15

開催地：八代市金剛校区

平成19年6月26日（火）、八代市金剛校区（会場：鼠蔵町研修所地域学習センター）において、「くまがわ・明日の川づくり報告会」が開催されました。

同報告会には、約20名の方々にお集まり頂き、球磨川水系河川整備基本方針の内容や小委員会等での審議の状況についてご報告いたしました。

質疑の際には、下記のとおりご意見等をいただきました。

参加者数※

市内	15名
市外	5名

※参加者数は記名者数

住民の方々から頂いた主なご意見・ご質問

【河川整備基本方針の説明について】

- ・説明を聞くと、ダムを造る以外に方法が無いのではと思う。最初から方向性が決まっている説明会になっているのではないか。
- ・3,000 m³/s、4,000 m³/sと言われても水量がどれくらいあるのか実感として分からない。

【球磨川の治水対策について】

- ・出水期に漁に出て20～30分後に戻ると大洪水になっていることがある。ダムが満水状態になって急に放流する可能性があると思うが、どういう放流の仕方をしているのか。
- ・前もってダムに貯まっている水を減らしておくことはできないのか。
- ・八の字堰に土砂が大量に貯まっていて、船が通らない。土砂を撤去してもらえないか。

【球磨川の環境について】

- ・鮎の放流に携わっているが、3月1日から5月半ばまで水が無くて放流できない所が年々多くなってきている。漁協の方針では、35箇所放流するとなっているが、今年は21箇所しかできていない。ダムの水が貯まった場所に放流するしかない状況である。
- ・遙拝堰の下流も、小さい川船でさえも渡れないところが何箇所もある。魚道を（魚が）通れるほどの水を流してもらえるのか。
- ・ダム上流に土砂が貯まり、覆砂のように何億円とお金を掛けないと干潟が維持できない。このようなことに対する国土交通省の関わり方について教えて欲しい。
- ・ダムに土砂が堆積しないようにするためには、支流に砂防ダムを設置しなければならないが、そうすると土砂が下流に流れず、干潟が縮小していく。人の力で土砂を堰き止めると我々の生活の糧である干潟が無くなってしまふ。国土交通省は今後、干潟を形成するために、どのような努力を行うのか。
- ・（地下水の保全の観点から）山の峠から何kmぐらいは人工林の植生を規制するような法律を制定することはできないか。

※ ご発言をそのまま掲載するのではなく、趣旨を変えない程度にまとめさせて頂いています。

※ ご質問への回答については、アンケートで寄せられたご質問への回答と合わせて、後日HPに掲載させていただきます。

